

『社会言語科学』特集論文募集のお知らせ

学会誌編集委員会では、以下の要領で特集「ウエルフェア・リングイステイクスにつながる実践的言語・コミュニケーション研究」(エディター：村田，森本，野山)の論文を募集いたします。特集に投稿された論文は、通常の投稿論文と同じく、査読を経て掲載が決定されます。

なお、特集では最終投稿期限が設定されていますのでご注意ください。投稿論文は基本的に投稿され次第、査読作業に入ります。したがって、より早く投稿された論文ほど、査読が早く済み、論文を修正する機会が多くなります。最終投稿期限は特集論文の投稿を受け付ける最終期限という意味ですので、早く投稿できる方は早めに投稿されることをお勧めします。刊行時期までに採用とならないときは、特集号以外の号に掲載されることもありますのでご了解ください。

特集論文の最終投稿期限：2012年11月9日(金) [郵送の場合消印有効]

掲載号の発行：2013年8月(第16巻第1号に掲載予定)

特集論文の投稿先：

E-mail：edit06@jass.ne.jp

郵送：〒169-0075

東京都新宿区高田馬場4-4-19

(株)国際文献印刷社内

社会言語科学会担当

*投稿に際しては、メールの件名あるいは封筒の表に「特集投稿論文」と明記してください。

テーマ： ウエルフェア・リングイステイクスにつながる実践的言語・コミュニケーション研究

担当エディター：村田 和代(龍谷大学)，森本 郁代(関西学院大学)，野山 広(国立国語研究所)

「ウエルフェア・リングイステイクス」は、社会言語科学会初代会長の徳川宗賢氏が提唱した(徳川1999)。徳川(1999)は、対談の中で、科学者の社会的責任について当時の学術会議会長が言及したことを引用しながら、次のように述べている。

「言語研究が楽しい、真理の追究をしていればいいと言ってばかりいずに、それも大切ですが、社会に貢献することも考えるべきではあるまいか、そしてこれまでの研究成果をどのように社会に役立てるか、足りないところはどこなのか、そういうことを考える時期になってきている」(1999: 90)

さらに、ウエルフェア・リングイステイクスにつながる言語研究のあるべき姿として、以下のようにトランスディシプリナリー(学際的研究)の重要性についても言及している。

「現代の言語問題をめぐって、伝統的な言語学だけではとても対応できない部分がたくさんあることがわかってきたと思うんです。……ですからこれからは他のディシプリンとしてそれぞれ存在してき

たものとの関係もつけていかなければいけないと考えるわけです」(1999: 99)

ウェルフェア・リングイスティクスは、「福祉言語学」「厚生言語学」とも訳され、目指すべきは「人々の幸せにつながる」「社会の役に立つ」「社会の福利に資する」言語・コミュニケーション研究であり、これは社会言語科学会の目標としても掲げられている。

社会言語科学会研究大会において「ウェルフェア・リングイスティクス」を直接のテーマとして取り上げた企画としては、第 24 回研究大会ワークショップ「持続可能な社会の実現に向けて私たちのできること—ウェルフェア・リングイスティクスを目指して—」、第 28 回研究大会シンポジウム「ウェルフェア・リングイスティクスの可能性について考える—調査における研究者と当該コミュニティの関係性という観点から—」があげられる。一方、『社会言語科学』では、これまで「ウェルフェア・リングイスティクス」を直接のテーマとした特集号は見られず、今回が初めての企画となる。

「ウェルフェア・リングイスティクス」が提唱されてから 10 年余り、21 世紀に入り、現代社会はますます複雑な問題に直面している。地球レベルでは、環境問題、貧困、多文化・他民族共生、経済格差等があげられるだろう。また、我々の住む日本社会に目を移しても、震災からの復興、原子力発電問題を契機としたエネルギー問題、格差社会、長引く不況等、早急に解決が望まれる問題が山積している。とりわけ、東日本大震災後、研究者にとって、自分たちの研究をどのようにして社会に役立てることができるかを考え、それらを実行することが喫緊の課題である。

本特集号では、ウェルフェア・リングイスティクスにつながる実践的研究の紹介を通して、現代社会に、どのような言語・コミュニケーション研究が必要なのか、持続可能な社会構築のためには言語・コミュニケーション研究がどのように貢献できるのかを考える契機としたい。

徳川(1999)では、ウェルフェア・リングイスティクスの視点から、言語障害、小言語問題、方言、アイデンティティ、老人語、差別と女性語、言語教育、表記、情報機器、情報選択、言語管理をめぐる問題について議論されているが、本特集号ではこれに限定せず広く募集する。特に他領域・他分野との連携や学際的な視点を取り入れた研究を積極的に紹介したいと考えている。また日本語のみならず外国語を扱った研究、及び日本国内の問題に限定せずグローバルな視点からのアプローチの応募も歓迎する。

本特集号が、ウェルフェア・リングイスティクスの体系的発展に寄与できれば幸甚である。

徳川宗賢. 1999. 「ウェルフェア・リングイスティクスの出発」『社会言語科学』2(1): 89-100.

野山広. 2011. 「ウェルフェア・リングイスティクスの可能性について考える—調査における研究者と当該コミュニティとの関係性という観点から—」社会言語科学会第 28 回大会発表論文集. pp.255-256.

村田和代, 大塚裕子, 森本郁代, オストハイダ・テーヤ, 坊農真弓, 渡辺義和. 2010. 「第 24 回研究大会ワークショップ 持続可能な社会の実現に向けて私たちのできること—ウェルフェア・リングイスティクスを目指して」『社会言語科学』12(2): 59-62.